

点鼻薬の種類と使い方と使用上の注意

Q：点鼻薬にはどのような薬がありますか？

A：点鼻薬は、アレルギー性鼻炎や鼻詰まりなどの鼻の炎症を抑える局所作用を目的とした薬と、中枢性尿崩症治療薬や子宮内膜症・子宮筋腫治療薬など全身作用を目的としたホルモン剤などがあります。

Q：使い方の注意などを教えてください。

A：鼻をかんで鼻孔の通気をよくし、手を洗ってください。

滴下するタイプと噴霧するタイプがあります。滴下・噴霧するとき、容器の先が鼻の内側に触れないように注意し、また、細菌汚染を防ぐため使用後は点鼻薬の先端部分をティッシュで拭き、清潔を保つようにしましょう。

点鼻薬の種類

- ①血管収縮剤：血管を収縮する作用により、鼻粘膜の充血・炎症・腫脹（血管運動性鼻炎）を取り、鼻づまりや充血の症状を改善します。
- ②アレルギー性鼻炎治療剤：くしゃみ・鼻水・鼻づまりを主症状とする鼻炎に使用されます。
- ③ステロイド剤、抗コリン剤：血管運動性鼻炎やアレルギー性鼻炎に使用されます。
- ④抗菌剤：細菌による感染や副鼻腔炎などに使用されます。
- ⑤ホルモン剤：主に、脳下垂体から分泌されるホルモンの不足による尿崩症（多量の尿が出る）の治療や、女性ホルモンの分泌を抑えて、子宮内膜症・子宮筋腫の治療などに使用されます。

点鼻薬の一般的な使い方

- ・鼻をかんで鼻孔の通気をよくします。
- ・手を洗ってください。

<滴下するタイプ>

- ・頭を後ろに傾げるか仰向けになり、枕を肩の下に当てて頭が後ろに傾くようにしてください。
- ・容器の先をほんの少し鼻の中に入れ、薬を滴下してください。
- ・薬が鼻の粘膜に十分に広がるように、数分間はそのままの姿勢を保つようにしましょう。

<噴霧するタイプ>

- ・頭を少し後ろに傾けます。
- ・容器の先をほんの少し鼻の中に入れ、他方の鼻孔を押さえて、息を吸いはじめると同時に容器を強めに押してください。

滴下・噴霧するとき、容器の先が鼻の内側に触れないように注意しましょう。また、細菌汚染を防ぐため、使用後は点鼻薬の先端部分をティッシュで拭き、清潔を保つようにしましょう。

使用上の注意

<血管収縮薬の連用による効果の低下と習慣性>

点鼻薬の中でも、特に血管収縮成分を配合するものは使いすぎに注意が必要です。この成分は、鼻詰まりに即効性がありますが、過度に使用すると鼻粘膜の血管が反応しなくなり、かえって鼻詰まりをひどくさせてしまう（慢性浮腫性病変：鼻閉）ことがあります。

<ステロイド>

鼻噴霧用ステロイド剤は一般に、経口ステロイド剤よりも副作用が軽微とされますが、患者の基礎疾患や併用薬によっては全身性の作用が問題になることがあります。

<花粉症（アレルギー性鼻炎）の治療>

各治療薬の症状改善までの時間が異なります。抗ヒスタミン薬が最も速効性で、ステロイド噴霧治療が数日、鼻閉に対する抗ロイコトリエン薬は症状改善までに4週間の継続投与を必要とします。

<離着陸時の耳痛を防ぐフライト前の点鼻薬>

離着陸時の耳痛や耳閉感は「航空性中耳炎」と呼ばれ、その原因は中耳内と外気の気圧差です。中耳内の気圧は、中耳と鼻をつなぐ耳管の入口（耳管咽頭口）が開くことで、外気圧と同じ水準に保たれます。中耳の内圧は鼻を通して調整されますが、離着陸時など外気圧が急激に変化するときは、この圧調節が間に合わず、気圧が低い側に鼓膜が引っ張られて耳の痛みなどが表れます。

特に、風邪やアレルギー性鼻炎などで鼻の粘膜が腫れていると、耳管咽頭口の開口が妨げられて、症状がさらに表れやすくなります。

抗アレルギー剤で鼻粘膜の炎症を抑えた上で、搭乗前に点鼻剤で鼻閉を改善しておけば、航空性中耳炎の予防が可能になります。血管収縮剤の点鼻薬の他、抗アレルギー剤の点鼻薬や市販の鼻づまり用点鼻薬にも同様の効果が期待できます。

*薬によっては使用方法が異なる場合がありますので、使用する際には説明書を良く読むか、又は主治医の指示に従ってください。

*噴霧器のなかには、最初の噴霧を行う前に予備噴霧をし、正常に噴霧されるのを確かめる操作が必要なものがあります。（2回目以降は、すぐに使用して結構です。）

【参考文献】

- (1) 今日の治療薬2008
- (2) 日経DI No. 125、No.133
- (3) 国立がんセンター がん対策情報センター がん情報サービスHP 診断・治療方法 > くすりの使い方と注意点 > 薬ののみ方、使い方
http://ganjoho.jp/public/dia_tre/medicine/howto.html#prg18_1
- (4) 慶応義塾大学病院薬剤部HP
<http://www.hosp.keio.ac.jp/yakuzai/2-anna/a4-hana/index.htm>
- (5) 平成20年 8 月版 保険薬事典Plus+
- (6) 日本医薬品集 一般薬2009-10

主なOTC医薬品

指：指定医薬品

2009年1月末現在

	商 品 名	区分	規制	成 分	用 法 ・ 用 量
塩配合製剤	バブロン点鼻Z	1	指	ケトチフェンフマル酸塩	7才以上1回両鼻腔内に1度ずつ、1日4回朝、昼、夕方および就寝前に噴霧、7才未満は使用しない
	ザジテンAL鼻炎スプレー	1	指	ケトチフェンフマル酸塩	成人(15才以上)および7才以上の小児：1回に1度ずつ、1日4回(朝・昼・夕および就寝前)両鼻腔内に噴霧
クロモグリク酸ナトリウム製剤	エージーノーズ	2	—	ナファゾリン塩酸塩 クロモグリク酸ナトリウム クロルフェニラミンマレイン酸塩	7才以上1回1噴霧ずつ、1日3～5回両鼻腔内に噴霧、使用間隔は3時間以上おく、3日間使用しても症状の改善が見られない場合には、使用を中止し、医師または薬剤師に相談する、7才未満は使用しない
	エージーノーズクール	2	—	クロモグリク酸ナトリウム クロルフェニラミンマレイン酸塩 ナファゾリン塩酸塩	7才以上1回1噴霧ずつ、1日3～5回両鼻腔内に噴霧、使用間隔は3時間以上おく、7才未満は使用しない
	ナーザルブロック	2	—	ナファゾリン塩酸塩 クロモグリク酸ナトリウム クロルフェニラミンマレイン酸塩	7才以上1回1噴霧ずつ、1日3～5回両鼻腔内に噴霧、使用間隔は3時間以上おく、3日間使用しても症状の改善が見られない場合には、使用を中止し、医師または薬剤師に相談する、7才未満は使用しない
	アルフィット鼻炎スプレー	2	—	ベンゼトニウム塩化物 ナファゾリン塩酸塩 クロモグリク酸ナトリウム クロルフェニラミンマレイン酸塩	7才以上1回1度ずつ、1日3～5回、両鼻腔内に噴霧 使用間隔は3時間以上おく、3日間使用しても症状の改善が見られない場合には、使用を中止し、医師または薬剤師に相談する 7才未満は使用しない
そのほかの抗アレルギー点鼻薬	ナーザル「スプレー」	2	—	ベンザルコニウム塩化物 ナファゾリン塩酸塩 クロルフェニラミンマレイン酸塩	7才以上1回1～2度ずつ鼻腔内噴霧、1日6回まで、使用間隔は3時間以上おく
	バブロン点鼻S	2	—	ベンゼトニウム塩化物 塩酸テトラヒドロゾリン クロルフェニラミンマレイン酸塩	7才以上1回1～2度ずつ鼻腔内噴霧、3時間以上の間隔をおいて1日6回まで、7才未満は使用しない
	エスタック鼻炎スプレー	2	—	ベンザルコニウム塩化物 フェニレフリン塩酸塩 クロルフェニラミンマレイン酸塩 リドカイン	7才以上1回1～2度、3～4時間ごとに鼻腔内に噴霧、1日6回まで、7才未満は使用しない
	ルル鼻炎スプレー	2	—	ベンゼトニウム塩化物 ナファゾリン塩酸塩 グリチルリチン酸二カリウム クロルフェニラミンマレイン酸塩 リドカイン	7才以上1回1～2度ずつ鼻腔内に噴霧、1日6回まで、使用間隔は3時間以上おく、7才未満は使用しない
	アネトンコールタイジン	2	—	ベンゼトニウム塩化物 塩酸テトラヒドロゾリン クロルフェニラミンマレイン酸塩 リドカイン	7才以上、1回1～2度ずつ鼻腔内に噴霧 1日6回まで 使用間隔は3時間以上おく、7才未満は使用しない
	コルゲンコーワ鼻炎ジェット	2	—	ベンザルコニウム塩化物 ナファゾリン塩酸塩 クロルフェニラミンマレイン酸塩 リドカイン	7才以上1回1～2度ずつ、1日1～5回鼻腔内に噴霧、適用間隔は3時間以上おく、7才未満は使用しない
	ベンザ鼻炎スプレー	2	—	ベンゼトニウム塩化物 塩酸テトラヒドロゾリン クロルフェニラミンマレイン酸塩 リドカイン	7才以上1回1～2度ずつ、鼻腔内に噴霧、1日6回まで、適用間隔は3時間以上おく、7才未満は使用しない
	ルッケル点鼻薬	2	—	ベンゼトニウム塩化物 塩酸テトラヒドロゾリン グリチルリチン酸二カリウム クロルフェニラミンマレイン酸塩 リドカイン	7才以上1回1～2度ずつ鼻腔内に噴霧、1日6回まで、使用間隔は3時間以上おく
	スカイナー鼻炎スプレー	2	—	ベンザルコニウム塩化物 塩酸テトラヒドロゾリン グリチルリチン酸二カリウム クロルフェニラミンマレイン酸塩 リドカイン	7才以上1回1～2度ずつ鼻腔内に噴霧、1日6回まで、使用間隔は3時間以上おく、7才未満は使用しない
	セビーAZ鼻炎スプレー	2	—	クロルフェニラミンマレイン酸塩 ナファゾリン塩酸塩 ベンザルコニウム塩化物 リドカイン	7才以上1回に1～2度ずつ、1日1～5回鼻腔内に噴霧、使用間隔は3時間以上おく、7才未満は使用しない